

学校結ぶ避難経路を整備

道作りを始めた。
作業は学校関係者が六月
に入つて草刈りをするなど

「と語る。しかし、沼田地区長が伊勢小屋沢が土石流などで渡れない時は、危険でもその山道を登るつもりだといふ。このため三人は「諦めてる場合じゃない。安全に避難できるように自分たちが行動しなければ」と考え、住民のための

だ。
同じ時期に他の生徒から
山道の存在を聞きつけた。
実際に歩いてみたが、草木
が生い茂るなどして道が分
からず、滑って転倒した箇
所もあった。三人は「避難
経路としての利用は危な
い。復興は無理だと思つ

四月から総合的な探究の
時間の授業で、戸前瞳君と
ん(ち)と沢渡史也さん
(一)、古川美沙希さん(二)
が防災について研究。教諭
から「かつて直接学校に回
るかつ避難経路が山中のど
かにあった」と聞き、復興
を目標して経路を探して、

蘇南高生/沿田地区住民に

南木曾町の避難施設に指定されている蘇南高校の三年生三人は八日、高台にある学校と麓の沼田地区を結ぶ山中の避難経路を整備した。これまで土石流で犠牲者が出たこともある伊勢小屋沢を渡って遠回りする必要があったが、斜面を上って避難できるようになる。

(戸田稔理)

(田金理)

三年生二人は八日、高
品を整備した。これまで
決して遠回りの必要が
(戸田稔理)

だ。歩きやすいうつ整え
た。作業を終えて戸前さんは
「人を助けるための過程は
しんどいが、大切なこと」
と学んだ様子。沢渡さんは
「すぐに道を用意できた。
自分たちも活用しながら町
の人も使ってくれたの」と
期待し、古川さんは「整備
するにつれ道が現れ、やっ
ぱり使われてた経路なんだ
と再確認した」と話した。
今後は全校生徒に歩いて
もらい、アンプターで危険
箇所を掃

か、ピンクのテープを樹木に結んで避難者が迷わないよう道順を示した。ほづきもらい、アンカーで危険箇所を掃き、筒所を掃く予定。

準備。生徒だからこの日、
の人も使つてくれたのと
期待し、古川さんは「整備
するにこれ道が現れ、やっ
ぱり使われてた経路なんだ
を張つて経路を作つたほ

「おづに道を用意できた。
自分だけでも活用しなさい」

しんぞいにか、大切ながりて」
と学んだ様子。沢渡さんは

「人を助けるための過程は、作業を終えて戸前さんによって渡りつる必要が

三年生三人は八日、高
屋を整備した。これまで
た。たきやういふ三疊を
三疊ニ整へて三疊を



木のべいにロープを結び、安全な避難経路を作る生徒たち＝南木曾町で